

淵中学校 平和関連の紹介

1 淵国民学校の歴史

現在の淵中学校は爆心地から 1200m の場所にあり、当時は淵国民学校という名前でした。旧校舎は 1940 年に建てられ、1945 年には今の中学 1・2 年生に当たる生徒や教員も軍需工場へ動員されていました。被爆当日の校内には三菱電気と造船所の工場が本校運動場に移転していて、68 人が作業しており、教員 2 人と工具 15 人が焼死されました。本館校舎は全焼し、体育館は骨組みだけになりました。終戦から 2 年後、「長崎市立淵中学校」と改称され、現在に至っています。淵中生徒がいつも献花をしている場所の石碑は、終戦の翌年に建てられたものです。「職員児童 戦災死者之碑（ひ）」と刻まれています。



2 「希望館」とは

長崎県内の中学校として、唯一の被爆校である淵中には、貴重な被爆関係資料が保存されています。2015 年には校舎内に展示していたものを「淵中平和資料室 『希望館』」の開設にともない移動して展示しました。希望館という名称は生徒から募集した案を参考にしています。玄関の表示板は本田勝一郎校長の書です。

さて、1984 年の体育館建て替えの際に保存されたのが、旧体育館の外壁遺構です。原爆の熱戦で、一部が炭になっている木材も見られます。また、1992 年の校舎建て替えの際には、旧校舎 玄関支柱と門扉（もんび）も、校舎出入口に残されています。希望館とその周辺には、被爆の資料や淵中の歴史がたくさんあります。ご来校の際には、ぜひじっくり見ていただきたいです。



3 「嘉代子桜」とは

2023 年 12 月に、嘉代子桜 2 世の殖木（たねぎ）が、本校に寄贈され、中庭に植樹されました。その嘉代子桜とは、長崎市立城山小学校に生育している 6 本のソメイヨシノの総称で、長崎市への原爆投下によって亡くなった林嘉代子さんを偲（しの）んで母親によって植えられました。絵本やドキュメンタリー番組の題材となった他、その意志を次世代へつなぐため日本各地で嘉代子桜 2 世の植樹が行われています。本校では、



淵中生徒の人権教育、平和教育の象徴として植樹しました。この苗が、満開の桜の花を咲かせ、生徒が語り合う場となる日が今から楽しみです。

4 「アンネのバラ」とは



アンネのバラとは、アンネの日記の作者、ユダヤ人の少女アンネ・フランクが、強制収容所で15歳の短い生涯をつづった日記に感銘(かんめい)を受けたヒポリテさんが、自分が作り出したバラの交配種の中から、最も美しいバラを「アンネの形見」と名付けたバラのことです。日本へは、アンネの父から寄贈され広まり、愛と平和のシンボルとなっています。アンネ・フランクの有名な言葉に「もし、神さまが私を長生きさせてくださるのなら、私は社会に出て、人類のために働きたいのです。」というものがあります。

5 「平和の^{きしゅう}輝生」モニュメントについて

モニュメントのコンクリート部分は原爆の傷跡を表現し、ステンレス部の曲線は未来の平和を願う全世界の人々の思いをステンレスの曲線と輝きで表現してあります。中央の半球は、この地球に生きているすべての生き物の魂を表現し、世界の中心となって世界平和を目指していくNAGASKIの未来への飛躍を表現しています。また、淵中卒業生一同からのメッセージとして「君たちは、長崎市民から地球市民をめざさなければならない。梅が丘から世界に向けて平和の誓いを発信しなければならない。」とつづられています。

1992年の7月26日に落成されたモニュメントには、在校生に託すことばとして、最後はこう締められています。「君たちは思い及ぶだろうか。家族や国家を守るため、最愛の父や兄が戦場に向かう後ろ姿を、君達と同じ年頃の世界中の若者が、どのような思いで見送ったかを。死に直面する戦場の恐怖をおぼろげに感じていた若者達の目に、止めどない悲しみが宿っていたことを。」 …

これからも、平和の願いを淵中から発信しています

